

令和元年度高齢者保健事業推進研修報告

開催日：令和元年11月27日（水）

会場：群馬県市町村会館2階大研修室

去る令和元年11月27日、県・市町村職員（後期・国保・健康増進・介護予防担当者）や関係専門職（保健師等）を対象とした研修会を実施しました。市町村内の保健・医療・介護部門の連携体制を更に充実させるため、市町村の現場が横連携を組み、既存事業を工夫活用しながら、低栄養防止・重症化予防事業の企画・実施方法の検討につなげることを目的としたもので、県内35市町村の職員を中心に、132人が参加しました。

前半は、厚生労働省保険局の越田補佐から事業経緯の行政説明及び最新情報の提供をいただいた後、特別講演として「大和市の事業立ち上げについて」と題し、神奈川県立保健福祉大学の田中和美教授を講師にお迎えし、低栄養防止・重症化予防事業の先進事例である大和市における事業立ち上げの経緯のほか、低栄養等該当者・高血糖及び腎機能低下該当者に対する保健事業の重要性について、実例を踏まえながらご講演をいただきました。



田中先生による特別講演



研修会の様子

後半は、「既存事業の工夫・一体的な実施で考えるわが自治体の低栄養防止・重症化予防事業」をテーマに、群馬大学大学院保健学研究科 佐藤由美教授の進行によるパネルディスカッションや、沼田市、片品村、昭和村の3市村の各担当者による事例発表が行われました。

また、広域連合からKDB(国保データベース)を活用したデータ分析の情報提供、参加者同士による演習や情報交換も行われました。

今回の研修会が、令和2年度から始まる高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施に向けた庁内連携の基礎となり、スムーズな事業実施につながることを期待しつつ、広域連合としても引き続き支援をしていきたいと考えております。



パネルディスカッションの様子